# 中学２年　国語科　教材別テスト⑦「盆土産」　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学２年　国語　／　「盆土産」（三浦哲郎）光村図書『国語２』

**【このテストの使い方】**

本文は載せていません。**教科書『国語２』の「盆土産」のページを開いたまま**解答します。この作品は、母を亡くし祖母と姉と暮らす小学生の「**少年**」**の視点**で語られる小説です。**えびフライ**という土産をめぐる出来事を通して、言葉には出さない**家族の情愛**が描かれます。したがって大問四では、**行動や言葉のうらにある気持ち**を自分の言葉でまとめる記述問題を中心に出題しています。抜き出しではなく、「**～という気持ち。**」「**～こと。**」「**～ため。**」の形で書く練習をしてください。

## 配点一覧

| 観点 | 大問 | 内容 | 配点 |
|---|---|---|---|
| 知識・技能<br>50点 | 一 | 漢字の読み書き（20問） | １点×20＝20点 |
| | 二 | 語句の知識（語の意味・慣用句・対義語・類義語・熟字訓） | ２点×７＝14点 |
| | 三 | 文法（助動詞の意味・用法） | ２点×８＝16点 |
| 思考・判断・表現<br>50点 | 四 | 「盆土産」の読解（12小問） | 50点 |
| **合計** | | | **100点** |

**【出題のねらい】**

①　**助動詞**（れる・られる／そうだ／ようだ／せる・させる など）の意味・用法を、文脈から見分けられるか。

②　語り手が**小学生の「少年」**であることをとらえ、その視点から語られる効果を説明できるか。

③　**母の死・父の出稼ぎ**という家族の状況を正しく読み取り、そのうえで少年の心情を考えられるか。

④　**えびフライ**という土産が、作品の中でどのような意味をもつか（ごちそう／父の愛情／母への供え物）を説明できるか。

⑤　最後の別れの場面の「えびフライ。」という一言に込められた**言葉にならない思い**を、自分の言葉で書けるか。

## 一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

| 番号 | 解答 | 番号 | 解答 |
|---|---|---|---|
| ① | **はかまいり** | ⑪ | **好物** |
| ② | **ぶつだん** | ⑫ | **油** |
| ③ | **せんこう** | ⑬ | **氷** |
| ④ | **ちょうちん** | ⑭ | **脱ぐ** |
| ⑤ | **でかせぎ** | ⑮ | **黙って** |
| ⑥ | **きせい** | ⑯ | **涙** |
| ⑦ | **けいりゅう** | ⑰ | **迎える** |
| ⑧ | **とうとつ** | ⑱ | **見送る** |
| ⑨ | **えんりょ** | ⑲ | **祖先** |
| ⑩ | **なつ（かしい）** | ⑳ | **笑顔** |

**小計　20点**

**【注意したい字】**

①「墓参り」は「ぼさん」ではなく「**はかまいり**」。②「仏壇」の「壇」は**つちへん**。「壇」と「檀」（きへん）を書き分ける。④「提灯」は熟字訓に近い読み方で「**ちょうちん**」。「ていとう」は誤り。⑤「出稼ぎ」は「**でかせぎ**」。「でかせき」と濁点を落としやすい。⑥「帰省」の「省」を「清」「精」と書かないこと。⑦「渓流」の「渓」はさんずい。⑰「迎える」は**しんにょう**。「迎かえる」と送りがなを多く書く誤りが多い。⑭⑮⑰⑱は**送りがな**まで正しく書けて１点。⑳「笑顔」は「えがお」。「わらいがお」は誤り。

## 二　語句の知識　（２点×７＝14点）

| 番号 | 解答 | 解説 |
|---|---|---|
| (1) | **イ** | 「唐突」＝前おきもなく、急であること。「突然」とほぼ同じ意味。エの「まわりに気をつかう」は「遠慮」の意味。 |
| (2) | **イ** | 「気が気でない」＝心配や期待のために、じっとしていられない。父の帰りを待つ少年の状態を言い表すのにぴったりの慣用句。 |
| (3) | **ア** | 「目を細める」＝うれしさ・いとおしさで、にこやかな顔つきになる。視力が落ちる意味ではない。 |
| (4) | **イ** | 「ほおばる」＝ほお（頬）がふくらむほど、口いっぱいに食べ物を入れる。ごちそうを夢中で食べる様子を表す。 |
| (5) | **失望** | 期待 ⇔ 失望。「落胆」も反対の意味を表すが、ここは**漢字二字**の指定なのでどちらでも正答とする。「絶望」は意味が強すぎるため△（教員の判断で可）。 |
| (6) | **郷里** | 「故郷」＝生まれ育った土地。類義語は「郷里」「故里」「生地」など。「**郷里**」を標準解答とし、「故里」も正答。「田舎」はひらがな・訓読みなので×。 |
| (7) | **ア** | 「土産」＝**みやげ**、「田舎」＝**いなか**。どちらも漢字一字ずつの音訓では読めない**熟字訓**。イ「旅行」ウ「荷物」エ「包装」はふつうの音読み。 |

**小計　14点**

## 三　助動詞の意味・用法　（２点×８＝16点）

| 番号 | ――線部 | 解答 | 解説（見分け方） |
|---|---|---|---|
| (1) | **れる** | **受け身** | 「姉に笑われる」＝**ほかから動作を受ける**。「～に（よって）」という動作主を補えるのが目印。 |
| (2) | **られる** | **可能** | 「起きられる」＝**～することができる**。「～ことができる」と言い |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | かえられるかで判断する。 |
| (3) | **れる** | **自発** | 「思い出**される**」＝**自然とそうなる**。「自然に〜してしまう」と言いかえられる。「思う・感じる・しのぶ」などの心の動きを表す語につきやすい。 |
| (4) | **られる** | **尊敬** | 「先生が入**られる**」＝**敬意**を表す。**主語が敬う相手**（先生・お客様など）であることが決め手。「お〜になる」と言いかえられる。 |

## 三　助動詞の意味・用法（つづき）

| 番号 | ――線部 | 解答 | 解説（見分け方） |
|---|---|---|---|
| (5) | **そうだ** | **伝聞** | 「帰る**そうだ**」＝**人から聞いた話**。**終止形**（帰る）に接続している形は伝聞。 |
| (6) | **そうだ** | **様態** | 「降り**そうだ**」＝**そういう様子に見える**。**連用形**（降り）に接続している形は様態。(5)との区別は**接続**で決める。 |
| (7) | **ようだ** | **比喩（たとえ）** | 「羽の**ようだ**」＝**たとえ**。「まるで～のようだ」と「まるで」を入れられるかで判断する。入れられなければ推定。 |
| (8) | **せる** | **使役** | 「持た**せる**」＝**ほかの人に～させる**。「～するようにさせる」と言いかえられる。五段・サ変には「せる」、上一・下一・カ変には「させる」がつく。 |

**小計　16点　／　知識・技能　合計　50点**

**【助動詞を見分けるコツ】**

①「**れる・られる**」は**四つ**（受け身・可能・自発・尊敬）。「**～に**」**を補えれば受け身**／「**～できる**」**なら可能**／「**自然に**」**なら自発**／**主語が敬う人なら尊敬**。

②「**そうだ**」**は接続で決まる**。連用形＋そうだ＝**様態**、終止形＋そうだ＝**伝聞**。（例）「降り‐そうだ」＝様態／「降る‐そうだ」＝伝聞。

③「**ようだ**」は「まるで」が入れば**比喩**、「どうやら」が入れば**推定**。

④「**た**」は過去・完了・存続（「～ている」の意味なら存続）。「**う・よう**」は意志・推量・勧誘（「～しよう」と呼びかけていれば勧誘）。

## 四　「盆土産」の読解　（50点）

| 番号 | 解答 | 解説・採点のポイント |
|---|---|---|
| (1)<br>3<br>点 | **イ** | 語り手は**小学生の少年**。えびフライを初めて見たときの驚き、父を待つそわそわした心の動きが、**説明ぬきで直接**読者に伝わる。<br>アは「大人になった語り手」が誤り（回想の形ではない）。ウは全知の語り手の説明で誤り。 |
| (2)<br>3<br>点 | **ウ** | 少年は**母を亡くし、祖母と姉と三人**で暮らしている。父は**東京へ出稼ぎ**に出ており、盆に帰省する。この家族構成をおさえていないと、墓参りや仏壇の場面の意味がつかめない。 |
| (3)<br>5<br>点 | **（例）父の帰りが待ちきれず、うれしくて落ち着かない気持ち。（26字）** | 「**待ちきれない・早く会いたい**」（３点）＋「**うれしい／落ち着かない・そわそわする**」（２点）の二点で採点。<br>「心配な気持ち」「不安な気持ち」だけでは０点。「**～気持ち。**」で結んでいないものは－１点。二十五～三十五字から外れたら－１点。 |
| (4)<br>3<br>点 | **ア** | えびフライは、**父が都会から持ち帰った、村では見たこともないごちそう**。だからこそ家族は名前もうまく言えず、何度も口にする。イ・エは「ありふれた／よく作る」が誤り。 |
| (5)<br>3<br>点 | **エ** | 言いまちがえたり何度もくり返したりする様子には**おかしみ（ユーモア）**があるが、同時に**そんなごちそうを知らずに暮らしてきたつましさ**も伝わる。笑いと切なさが同時にあるのがこの作品の味わい。イのように「笑い物にする」のではない。 |
| (6)<br>5<br>点 | **（例）おかしみの中に、年老いた祖母への切なさがにじみ出ていること。（30字）** | 「**思わず笑ってしまうおかしみ**」（２点）＋「**年老いた祖母をあわれに思う切なさ・いとおしさ**」（３点）の二点で採点。<br>「歯がないからかわいそう」という内容でも、**おかしみと切なさの両方**にふれていれば満点。どちらか一方だけなら半分。<br>祖母の言葉を書き写しただけのものは０点。「**～こと。**」で結んでいないものは－１点。二十五～三十五字から外れたら－１点。 |
| (7)<br>5<br>点 | **（例）亡くなった母にも、家族と同じごちそうを味わわせてあげるため。（30字）** | 「**亡くなった母にも**」（３点）＋「**同じごちそうを食べさせたい／いっしょに味わってほしい**」（２点）の二点で採点。<br>「仏壇だから供えるのが決まりだから」という**習慣の説明だけ**は０点。**死んだ母を今も家族の一人として数えている**ことに気づけているかが分かれ目。「**～ため。**」で結んでいないものは－１点。二十五～三十五字から外れたら－１点。 |

## 四　「盆土産」の読解（つづき）

| 番号 | 解答 | 解説・採点のポイント |
|---|---|---|
| (8)<br>7<br>点 | **（例）父と別れるのが寂しく、別れの言葉の代わりに思いを伝えたい気持ち。（32字）** | **本教材最大の読みどころ。**「さようなら」「また来てね」と素直に言えない少年が、口をついて出たのが「えびフライ。」という一言だった。<br>**「別れがさびしい・また帰ってきてほしい」**（4点）＋**「うまく言葉にできず、えびフライという言葉に思いを託した」**（3点）の二点で採点。<br>「もっとえびフライが食べたかったから」という**食べ物の話だけ**にしたものは0点。<br>三十〜四十字から外れたら－1点。 |
| (9)<br>3<br>点 | **イ** | 方言は、**その土地に生きる人々の暮らしや、家族のやりとりのあたたかさ**を生々しく伝える。標準語に直すと、この手ざわりは失われる。ア・ウ・エは方言を低く見たり、ずれた説明になっている。 |
| (10)<br>3<br>点 | **ウ** | 「盆土産」とは、盆に帰る父が持ち帰る土産のこと。それは単なる食べ物ではなく、**離れて暮らす父の家族への愛情**であり、**それを待つ家族の思い**をつなぐ証。アのように「まずしさ」だけを読むのは浅い。 |
| (11)<br>4<br>点 | **ア・ウ・オ** | ア「肩の荷が下りる」＝責任や負担がなくなってほっとする、で○。ウ「舌を巻く」＝あまりのすばらしさに感心する、で○。オ「猫の手も借りたい」＝非常に忙しい、で○。イ「足が棒になる」＝長く歩いたり立ったりして足が疲れる意味で、緊張した場面には使えないので×（緊張なら「足がすくむ」）。エ「取りつく島もない」＝相手の態度が冷たく、話しかけるきっかけがない意味で、病気で寝込んだ友人の話には合わないので×。**ア・ウ・オの三つそろって4点（完答）**。一つでも欠けたり、余分に選んだりしたら0点。 |
| (12)<br>6<br>点 | **（例）直接の言葉ではなく、土産のえびフライや墓参りといった行いを通して、たがいを思う心が描かれている。（48字）** | 【ルーブリック】<br>**・A（6点）…「愛情を言葉で言い表さない（直接語らない）」＋「土産・食事・墓参りなどの具体的な行いを通して描かれる」**の二点がそろっている。<br>**・B（4点）**…どちらか一方にふれている。<br>**・C（2点）**…「家族が仲よく、あたたかい」程度の感想にとどまる。<br>**・D（0点）**…あらすじの要約のみ、または無解答。<br>※四十〜五十字から外れたら－1点。 |

**【この教材で落としやすいポイント（８つ)】**

1. 語り手は**小学生の「少年」**。大人になってからの回想ではない。だから説明が少なく、気持ちは**行動や言葉づかい**からしか読めない。
2. 家族の状況＝**母は死んでいる／祖母と姉と三人暮らし／父は東京へ出稼ぎ**。この三点を最初におさえる。
3. **えびフライ**は「おいしい食べ物」ではなく、**都会から来たごちそう＝父の愛情の形**。作品全体を貫く中心のものとして読む。
4. 家族が「えびフライ」をうまく言えない場面は**笑いだけではない**。おかしみと、そんなごちそうを知らなかった暮らしの**つましさ・切なさ**が重なっている。
5. 祖母の「歯がねえのに」は、**笑わせる言葉でありながら、年老いた祖母のあわれさ**をにじませる。笑いと哀しみが同時にあることを説明できるように。
6. 仏壇に供える行為は**単なる習慣ではない。死んだ母を今も家族の一人として数えている**ことの表れ。
7. 最後の「**えびフライ。**」は**食べ物の話ではない**。「行かないで」「また来て」と言えない少年の、**言葉にならない思い**がこの一語に託されている。最大のポイント。
8. 気持ちを問う記述では、**場面をなぞるだけでは０点**。「**～という気持ち。**」「**～こと。**」「**～ため。**」と、設問で指定された形で結ぶこと。